

広報委員会 活動報告

株式会社総合積算 代表取締役
BSIJ 理事・広報委員長
宮川 剛



昨年より広報委員会の委員長を拝命し1年が過ぎましたが、当初は慣れない大役に戸惑いながら、1年間の流れをつかむ一年でありました。本年度は少しずつ慣れ、ようやく広報委員会としての目的が整理されつつあります。

その中でも、広報委員会では2020年を一つの区切りと考え、昨年より「ターニングポイント2020」という大きなテーマを表し、業界の動向、新しい働き方、就職活動、コストの行方、技術革新、女性の進出、若手の育成など様々なテーマを機関誌に掲載しております。

広報委員会の目的

広報委員会の目的は以下の通りです。

① 対外広報の充実(メディア・関連団体・行政)

従来、メディア対応は本協会の事務局の方で対応してきておりましたが、本部総会後の記者会見に同席するなど、徐々に広報委員長として露出しつつあります。また、今後は関連団体や行政機関への広報活動も活発にして行こうと進めております。

② 会誌『建築と積算』コンテンツのさらなるレベルアップ

会誌に関してはすでに表の『建築と積算』と裏

の『けんせき』で読者のターゲット層ごとに内容を変更しました。また誌面にイラストを掲載し従来のイメージより、少し柔らかいイメージに変換しております。

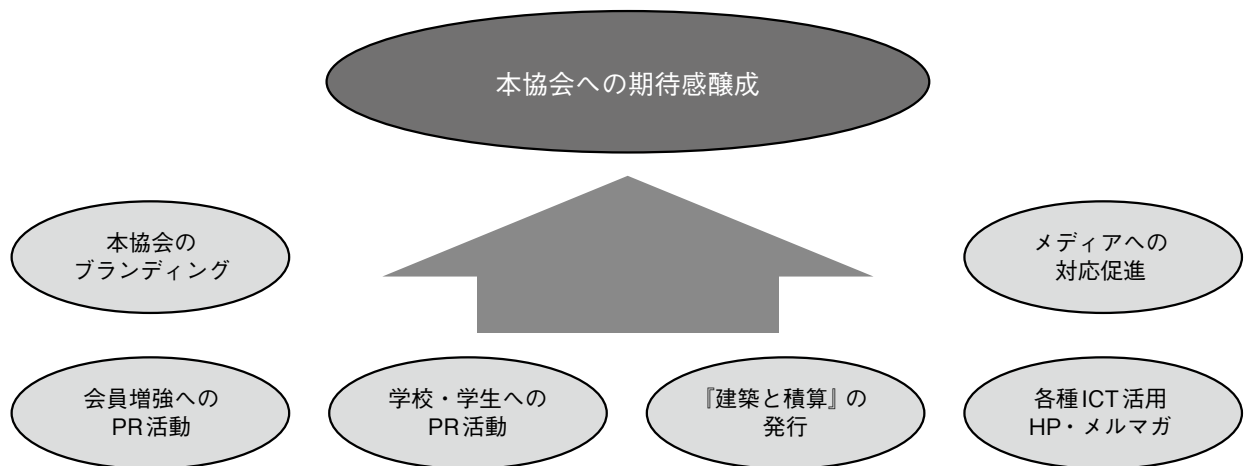
③ 各種ICTを活用した効果的な情報発信(HP・メルマガ他)

ICTに関しては、非常にハードルが高く、個人的にノウハウを持ち合わせていないので他委員会との連携を模索しております。

広報委員会の課題

広報委員会の課題とは他委員会や各支部との連携です。広報とは単に活動報告の場ではなく、会員の皆様に理解していただき、興味を持ってもらい、最終的に本協会を応援していただけるような活動だと思えます。

そのためには他委員会や各支部からの情報の吸い上げを行い広報するべきテーマを決め、発信していただく方に打診し執筆などをしていただきます。その初動である情報が吸い上げのための連携が不足しています。この連携が不足すると広報する内容に偏りが生じ、本来広報するべきテーマのタイミングを逃してしまったり、機関誌であれば読者の皆様が興味を持てるような記事の掲載がで



広報活動イメージ図

表1 他委員会との事業計画相関図の一部

事業計画	事業計画委員会	会員委員会	人材育成委員会
対外広報の充実(メディア・関連団体・行政)	ミッション・ビジョン広報	会員増強への 広報戦略	人材育成体系活用
会誌「建築と積算」コンテンツのさらなるレベルアップ	会員サービス 対外PR		CPD コンテンツ
各種ICTを活用した効果的な情報発信(HP・メルマガ他)			
事業計画	教育委員会	情報委員会	評価評定委員会
対外広報の充実(メディア・関連団体・行政)	認定校拡大	BIM 関連情報	公益性アピール
会誌「建築と積算」コンテンツのさらなるレベルアップ	学生向けの コンテンツ		ICT 技術活用
各種ICTを活用した効果的な情報発信(HP・メルマガ他)			

きなくなります。

これらの連携不足を解消するには上記(表1)の通りお互いの相関関係を理解し、広報すべき内容をしっかりと理解することが大切であると考えております。

広報委員会の今後

2020年を境に建設業界は大きく変わろうとしています。その中でコストマネジメントの重要性が大きな注目を浴びており、本協会はその期待に答えるべく様々な活動をしております。また、BIM対応した数量積算基準の改定や公共機関に対応する評価評定事業、近年増加している木造建物の積算基準など本協会が担うべき多くの課題も山積みです。

そういった流れの中、本協会における広報活動はますます重要になってくると思われれます。昨年より新しい委員会のメンバーも参加していただき活動領域の拡大にも対応しつつあります。

先述したとおり、他委員会、各支部との連携がうまくできるようになれば、会員の皆様へより興味や期待を抱かせるような情報を届けられると思いますので、今後とも関係者の皆様にはご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。